

構造改革特別区域計画

1. 構造改革特別区域計画の作成主体の名称

長野県木曽郡南木曽町

2. 構造改革特別区域の名称

南木曽町教育特区

3. 構造改革特別区域の範囲

長野県木曽郡南木曽町の全域

4. 構造改革特別区域の特性

昭和36年に読書村、吾妻村、田立村の3か村の合併により発足した南木曽町は、長野県の南西部、木曽谷の南端に位置し、東は飯田市・清内路村、西は岐阜県中津川市、北は木曽郡大桑村に接している。町の総面積は215,96k㎡で面積の約94%が山林で占められており、そのうちの約70%が国有林である。「一筋の街道」と藤村に評されたが、「木曽の美林地帯」に囲まれ田立の滝を初め、人の心を癒す自然環境を有している。

木曽の山深い本町ではあるが、すでに奈良時代初めには畿内と東国を結ぶ東山道が通り、慶長6(1601)年には徳川家康によって中山道が制定された。妻籠宿は江戸から42番の宿場として栄えた。妻籠宿以外にも本町には貴重な文化財が多く、伝統芸能などを核として地域活性化を図っている。また長い歴史を有する伝統的工芸品も多く、平安時代に起源をもつとされる「南木曽ろくろ細工」は、全国唯一の木地師の集住地として知られる広瀬でその技術が受け継がれている。「蘭の檜笠」は、蘭地区で江戸時代前期から編まれており、今日でも伝統的な手作りによって生産されている。桶や建具などの木工も盛んで、体験学習に訪れる人も多い。

体験学習の参加者の感想として“モノづくりのよるこび”もさることながら、「伝統工芸に真摯に取り組む姿勢に感動した」「日本人の心を垣間見た気がした」等、制作者との共同作業の中で交わされる様々な会話からの学びを挙げる人も多い。そのことは、伝統工芸を継承する者たちの支えと誇りにもなっている。

また、日本で最初の町並み保存を手掛けた「妻籠宿」(国選定重要伝統的建造物群保存地区)を

初め、国指定史跡「中山道」、国指定重要文化財「桃介橋」などを擁し、年間70万人近い観光客が来訪し、今もなお、「日本の歴史」を当時さながらに彷彿させる環境に恵まれている。

妻籠宿を訪れる人の多くが立ち寄る「南木曾町博物館」（脇本陣奥谷・歴史資料館・妻籠宿本陣）には木曾の歴史に関する資料と共に島崎藤村ゆかりの品々が陳列され、日本文学界の先駆者の思いにふれることも出来る。

藤村の第3期の作品、『夜明け前』は「長編歴史小説」としての意味ももち、当時の人の生活や社会の様子を知ることができる。「南木曾町博物館」を訪れた方々の意見に、「改めて藤村を読む機会となり、当時の“家”のあり方を考えさせられました」「歴史の中で翻弄される主人公にふれ、人の生き方を改めて考えさせられました」等があり、歴史と生き方を学び、藤村の新しいファンとして加わる人も多い。

このような特性をもちながら、そして名古屋より1時間半の地にありながら、長い間、静謐な町として南木曾町があり続ける中で「妻籠宿」を原風景として、「日本の最も美しい村」の一つとして近日中にNPO法人「日本の最も美しい村」連合から南木曾町が認定されることになっている。

改めて、これからの日本を背負う若人に「歴史の意味と重み」「自然の恵み」「人の優しさ」「一つのことに真摯に取り組む大切さ」「他人を知り、他人を認める気持ち」を理解して欲しい、そう思わせる昨今の全国での出来事、事件等の社会事象の多い中で「町総体の資産を活かすこと」が「町の使命」との思いを強くしている。

一方で本町の実状を考察すると、全国的に見られる少子化の進展は本町においてはより顕著であり、地域経済や地域社会に大きな影響を与えることが懸念されている。

本町における合計特殊出生率（一人の女性が生涯に産む子どもの平均人数）は、平成15年度で1.20人（全国1.29人、長野県1.44人）となっている。従って、町内で1年間に生まれる子どもの数は、平成17年度～平成21年度の5年間の平均で29.6人と推計される。南木曾町内小中学校の児童・生徒数も平成9年度の529名から平成20年度には347名と減少傾向で、今後も減少が続いていくことが予想される。

全国的には、核家族化や都市化、共働き世帯の増加などにより様々な問題が生じている。地域の中でのふれ合いが少なくなり、また家庭教育機能も低下し、基本的な生活習慣や基礎体力が身につけていない生徒が増えている。さらには子ども同士のふれあいの場や機会の減少によるコミュニケーション能力の低下、相手を思いやる心に欠ける面も多くみられる状況となっている。

本町でも、人口が少ないために人数的にはさほどではないが、様々な問題を抱えた児童生徒の割合は相対的に大きくなっている。

このような現状をふまえ本町では、2008年に「第8次南木曾町長期振興計画 後期基本計画」（以下、基本計画という。）を策定し、その中の基本目標のひとつである「みんなが学び成長するまち」を目指す中で、町としても新しい教育に取り組んでいくことを、考えねばならない実

状を抱えているとしている。

また、基本計画の施策項目のひとつである「学校教育の充実」の主要施策には「確かな学力を身につける教育の推進」「思考力・判断力・表現力などを育成する教育の推進」「特色ある教育によって個性を生かす教育の推進」「国際社会に生きるための国際理解教育の推進」「情報化社会に対応できる情報教育の推進」「心身の健全育成」「開かれた学校づくりと将来の教育環境の検討」等が示されており、前述した様々な問題も含めた課題解決に、これら施策に沿った誠実かつ斬新な教育が必要となってきた。

5. 構造改革特別区域計画の意義

全国的な不登校児童生徒の増加、高等学校中途退学問題、高等教育機関を卒業しても正社員とならずフリーターとして働く若者の増加など、10代から30代の世代をとりまく問題は大きく変化している。また、ニートと呼ばれる若者の増大も社会問題化している。

前項にも述べた、本町のもつ他の地域にない特性を活かしたこれからの時代を担う若者を育てていく学校が必要であるが、現在町ではその任に当たることのできる教育施設を有していない。その為に適した教育を施す場所として「通信制単位制高等学校（広域）」の設立を若者の教育を真剣に考える企業と協力し、特区申請し、実施したいと考えた。

以上、前項を踏まえ本町での構造改革特別区域計画の意義を整理すると、次の諸点があげられる。

- ①本町は、木曽という豊かな森林地帯の中にあって他に優るとも劣らない自然環境を有している。また全国に先駆けて実施した妻籠宿保存で絶好の歴史学習の場も擁している。町民も穏やかで、人情味豊かな風土をもち豊かな自然の滋味にあふれ、歴史の中にたたずむ環境は“人間力”を養い、様々な学びで身につく“社会力”と“職業力”とをバランスよく兼ね備えた人材育成に寄与できる条件を有している。
- ②核家族化の状況の下“家庭の役割”“家庭教育”の崩壊する中で、「何故家庭が大切か」「何故家族なのか」その意味を実状から正しく伝える「囲炉裏文化」の継承が南木曽町博物館に残されている。併せて、藤村の作品にふれることで更に理解を深めることができる。
- ③高校生のスクーリングにおける体験学習の場が豊富である。ろくろ細工による木挽体験、蘭の檜笠の制作体験、木工芸品の製造体験を初め、近隣の農地を利用しての農業体験、広大な山林での林業体験などもでき、人々とのふれ合いと共に自然と歴史を学ぶことができる。その中で自ずと他者とのコミュニケーション能力を身につけることもでき、多感な高校生の情操を育む環境としても十分対応できる。
- ④本町は、妻籠宿以外にも数多くの国・県・町指定の文化財を擁している。また「南木曽町博物館」（脇本陣奥谷・歴史資料館・妻籠宿本陣）では、木曽の歴史や町並み保存の歩みなどが豊富な史資料を通して身近に学習できる。

⑤本町に伝わる伝統芸能（蘭のさいとろさし・大黒踊り・神楽獅子・歌舞伎など）を地域の人々とのふれ合いの中で習得することによって、伝統のもつ意味、地域社会で暮らす（＝人と人とのふれ合いの中で暮らす）意義を学ぶことができる。

⑥藤村ゆかりの地で藤村の作品にふれることにより、携帯・ゲーム文化の中で育った「なかなか本にふれることの少ない」高校生に、読書によって“他人の生き方”“他人への思いやり”“一人では生きていけない＝共生していくことを考えなくてはいけない”ことを指導することができる。

家族を殺傷するという痛ましい事件も多発する中、自己中心的な発想を少しでも改善していくことができると考える。

このような現代社会のもつ様々な悩みを解決する環境を本町は有する。

以上の教育的な意義に併せ、一方で、現実的な課題として過疎化の進む町の再生のための意義も重要といえる。

町として特区事業を行うことは、以下の意味も大きく付加される。

①集中スクーリング時における南木曾町外からの生徒や保護者など、関係者の流入による経済的効果が期待できる。

②通信制単位制高等学校（広域）の新設により、教職員や事務職員などの雇用が期待できる。

③町民を対象とした社会教育講座を、生涯学習の場として提供することができる。

また、本町の高校教育の現状を考えると、従来の普通・工業・商業の3学科から、来年度より総合学科1科のみとなり、総合学科カリキュラムの中で、地域の多くの高校生を育む使命をもっている。

そこで、前述の町の特性を活かし、廃校となっている町内の校舎を活かし、悩みをもつ若者の為に役立ちたいと本町が思う中で、特区制度を活かした高等学校創りを目指すヒューマンホールディングス株式会社と出会った。

同社は、グループ企業として、高校卒業生を対象とした「専門校ヒューマンアカデミー」を運営している。同校は、近年、入学生徒の学習能力の低下、コミュニケーション能力の不足、目的意識の希薄さを感じてきた。

そこで、グループの中に新たに、基礎学力の向上・人間力の醸成を重要視し、進路学習を多様に取り入れた高等学校の新設を企画していた。

その想い・目的は、「廃校を活用し、町の特性を活かした学習環境を創り、これから日本を支える若者を育みたい」という町の意向と合致し、「町の想い」を実現出来る、と考えるに至ったものである。

6. 構造改革特別区域計画の目標

以上をふまえ、高校生たちが卒業後の「社会力・人間力・職業力」を身につけて巣立つための教育の実践を進め、将来の日本の社会で活躍する若人を育てていくことを本町とヒューマンアカデミー学園株式会社とが協力し、特区の目標としたい。

具体的には、進路先が決定できない生徒たちに対して、社会に巣立つために必要な学力をつける教育に加え、何よりも将来を生きていく「力」を身につける「キャリアデザイン」教育を「総合的な学習の時間」に取り入れ実施することで、進路先を明確にし、将来への自信をつけさせる。

そのために、「総合的な学習の時間」に「秘書検定資格取得講座」の学習の一部を取り入れることにより、社会人として生きていく上でのマナーやルールを身につけさせる。また「コミュニケーション力養成」の時間を設けることで、人と話すことの苦手な若者たちに社会力が身につくように指導する。「WORD・EXCEL」を学ぶ時間を設け、基本的なパソコンスキルを学び、社会に出るための個人のインフラを構築する指導を取り入れていく。

次に、各教科学習に加え生徒一人ひとりが進路に沿った、より専門的な（資格取得も含めた）“職業力”を身につける体験学習を、教育理念に賛同して頂ける（地元）企業や大学、専門学校と連携し、行うことができる環境をつくる。その中で卒業までの3年間に、社会（企業）が求める人材となるために必要なことが理解できるように支援をしていく。

さらに、やりたい職種への就職を目指す（目的をしっかりとる）ことで、目的に必要な学習へのやる気を促進し、卒業後の自分を的確にデザインすることができるよう指導する。教育の機会を逸していると思われる高校中退者やフリーターやニートと呼ばれている若年層、不登校生徒や様々な理由で進路変更を余儀なくされている生徒など、彼らもまた、これからの社会の中でその一員として活躍しなければならない人材である。これらの若者にとって、自然あふれる環境で心身ともに充実する中で経験する様々な学習機会は必ず役立つはずである。

ボランティア活動においては、町内民間非営利団体等との協働により、デイサービスセンターや養護老人施設における介護体験等も行っていく。

以上の「体験学習」、「スキルアップ学習」、「ボランティア活動」については学校の学習の中に進んで取り入れていく予定である。そのことにより、生徒が“人間力・社会力”と“職業力”を身に付けると共に他者への理解を深め、心身のバランスのとれた成長をすることで、生きる力を定着させていくことができる。

このためには町民の協力はもちろん、それぞれの専門家に協力と指導を求め、本校教諭とのチームティーチングで充実した指導をしていくこととする。このような教育を行うことが可能な環境整備を考えると、基礎から様々なレベルの資格取得講座を開講、指導している経験をもつ東海福祉総合専門学校等と連携し、基礎学力をしっかりと身につける指導と併行し「総合的な学習の時間」に、本校教諭と連携し「幅広い進路」を学ぶことを取り入れ指導していくことが最適と考えるに至った。そして、それをあたたかく見守る地域社会とのコラボレーションにより、新しい教育環境の構築が期待できる。

本計画は以上のことを前提に、既に私立通信制高等学校において運営・教務を経験した職員・教諭、教育指導を経験した教諭、生徒募集を経験した職員を採用し、更に専門校運営経験者・財務担当者も加えて、その任に充てる設置会社による単位制通信制高等学校（広域）を誘致し、当該目標の達成を目指すものである。

学校の設置主体に関しては、「学校設置会社による学校設置事業（816）」の特例を適用する。教育特区として地域活性化を図るため、新たな株式会社の単位制通信制高等学校（広域）を設立し、町民の協力の下に進めていくものである。

7. 構造改革特別区域の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

（1）学校設置による社会的効果

少子高齢化の進行や高度情報化の進展は、南木曾町にも影響を大きく及ぼしている。高等学校進路変更生・中途退学者、不登校生の数が生徒数に占める割合は増加傾向にある。その理由としては、変化が激しい未来への負担感や不安感などによる逃避、家庭教育の崩壊、「未来よりも現在の生活を楽しみたい」、自分の将来像が描けないが故の「社会に巣立ちたくない」という現状への安住志向などが考えられる。この傾向は学習意欲だけでなく、卒業後の就労意欲の低下にも繋がっている。

大人よりも子どもが少ないというアンバランスな地域社会の担い手となっていく子どもたちに、また、基礎学力はあるもののそれ以上の成績があげられない生徒たちに、「自分のやる気」を喚起させ、十分世の中に認められ将来の職業までみつけられる自信をもたせることを目指したい。「心身の相伴った成長を促す教育」が実現できれば、地域社会ひいては我が国の経済の活性化にも資するところとなり、その社会的効果は大きいと考える。

（2）学校設置による経済的効果

①教職員の雇用計画

ヒューマンアカデミー学園株式会社による単位制通信制高等学校（広域）を設立・経営維持するために、教職員をはじめ事務職員などの新たな雇用が見込まれる。

	教職員雇用（地元）	給与支給額
平成 20 年度(見込み)	3 名	950 万円
平成 21 年度(見込み)	3 名	950 万円
平成 22 年度(見込み)	4 名	1300 万円
平成 23 年度(見込み)	4 名	1300 万円

*教職員は非常勤職員も含む

②集中スクーリングによる町外からの生徒及び家族、関係者による消費需要（飲食・宿泊・観

光・学習教材・書籍)の増加が見込まれる。

	集中スクーリング参加見込み	当町への民間需要規模
平成 21 年度(見込み)	400名	1300万円
平成 22 年度(見込み)	1200名	2500万円
平成 23 年度(見込み)	2500名	5000万円

- ・ 21年度～23年度生徒数の見込み
本校の他に東海地区を中心に募集拠点を10箇所設置予定。各拠点に21年度40人、22年度80人、23年度100人の募集を計画。
- ・ 収容定員 2,500人
- ・ スクーリング日数
生徒の履修単位数により異なるが、年間4～7日間の集中スクーリングを実施。
(メディア活用により、10分の6のスクーリングの減免を予定)
- ・ 協力専門学校・短大
南木曾町の本校位置を考慮し、東海地区での協力を募る。
東海福祉総合専門学校、中日本航空専門学校から協力の了承を得ている。

③町有地の校舎を有償貸付することによって、定期的な歳入が見込まれる。

8. 構造改革特別区域の事業の名称

- ・ 学校設置会社による学校設置事業(816)

9. 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

- ・ 特になし

別紙 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規制の特例処置の内容

別紙①（特定事業番号：816）

1. 特定事業の名称

816 学校設置会社による学校設置事業

2. 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

ヒューマンアカデミー学園株式会社が設置するヒューマンアカデミー高等学校（仮称）

3. 当該規制の特例措置の適用の開始の日

構造改革特別区域計画の認定を受けた日

4. 特定事業の内容

①事業に関する主体

ヒューマンアカデミー学園株式会社

②設置位置

長野県木曾郡南木曾町吾妻 3842 番地 1

③設置時期

平成 21 年 1 月 15 日

④事業により実現される行為や整備される施設などの詳細

ヒューマンアカデミー学園株式会社を単位制通信制高等学校（広域）の設置主体として認める。

なお、当該高等学校の施設概要は以下のとおりである。

所在地	区分	地目又は構造	数量m ²	備考
南木曾町吾妻 3842 番地 1 内	土地	学校用地	1,159.13	旧蘭小敷地
南木曾町吾妻 3859 番地 39 内	土地	学校用地	4,171.82	旧蘭小敷地
南木曾町吾妻 3866 番地 2	土地	学校用地	469.45	旧蘭小敷地
南木曾町吾妻 3859 番地 39 他	建物	R C 造三階	1,255.51	校舎

⑤教育課程について

別表 1 - 1 【教育課程】 のとおり

5. 当該規制の特例措置の内容

○南木曾町に存在する教育上の特別なニーズ

今日の物質的な豊かさや生活の便利さのなかで、子ども自身が心の豊かさや精神的なたくましさに欠け、それに加えて核家族化や都市化、共働き世帯の増加などにより様々な問題が派生している。

地域のふれ合いや家庭教育機能が低下し、基本的な生活習慣・基礎体力が身につけていない生徒、生活の中で学力を生かす機会が欠如するため基礎学力の大切さを感じられず、身につけていない生徒が多くなっている。子ども同士のふれあいの機会の減少によるコミュニケーション能力の低下、思いやりの心に欠ける面も強くみられるようになっている。

これらの課題を改善していくためには、家庭と学校と地域の“ハートtoハート”の連携を重視した、全人的教育機能の確立が急務である。また、高齢化の進行や世帯構成の変化などの急速な環境社会の変化に適応し、且つ高度情報化の進む現代社会のニーズに合った“人間力・社会力”と“職業力”を身に付けた人材を育成することが急務である。

以上から、様々な学習機会を備え生徒たち一人ひとりが“将来設計”ができる新しい高等学校（通信制 単位制・広域）を、本町と「想い」を共有する設置会社と連携し、設立を目指して提案する。

「職業力」修得者については、新規事業（観光業や農林業）への人材として創出することも可能となる。地域への人材の創出は人口流出を抑制させ、定住化率が高まることも期待でき、労働力不足の解消にもつながる。

様々な生徒たちに対して、進路ガイダンスを実施する中で将来に対する目的を明確にすることで、自身が社会を構成する一員として何らかの役割を担い、その責務を果たすことで社会的存在が得られるということを指導したい。そうすることによって自立への意欲が高まり、学習や就労意欲が高まると考えられる。このような出発の場を提供することは、将来への悩みを抱く全国の生徒たちに対して、本町の恵まれた環境の中で設置会社と協力し教育を行っていくことは、大変に意義深いことであると考えます。

この通信制単位制高等学校（広域）は、「第8次南木曾町長期振興計画 後期基本計画」の基本項目「学校教育の充実」に助力でき、大きく推進させるものと確信する。

(1) 一定の条件

実質的な親会社であるヒューマンホールディングス株式会社は、ヒューマングループ各社の持ち株会社であり、ジャスダックに株式を上場している。

また、ヒューマングループの主軸法人であるヒューマンアカデミー株式会社は、創立以来2

3年間に渡り、社会人教育、全日制教育、国際教育を行う専門校を運営している。以上の2点より、その全てのノウハウを共有できる設置会社であるヒューマンアカデミー学園株式会社は、経営、運営の面で基本的な要件を満たしていると判断できるものである。

資産要件としての学校の校地・校舎については、統合により廃校になった旧蘭小学校を有償貸付することで契約を予定している。その他、必要な運営財産・校舎のリフォーム等についての準備金として、ヒューマンアカデミー学園株式会社が1億円を予定していることから、十分であると判断できるものである。

最後に、当該単位制通信制高等学校（広域）を運営する役員は、出版社にて書籍編集局・雑誌編集局に勤務し、大学受験雑誌の編集長を歴任した者、私立通信制高等学校教務責任者を務めた者、私立通信制高等学校校務責任者を務めた者、専門校の運営責任者を務めた者等、当該単位制通信制高等学校（広域）を運営する役員として十分な見識と経験・知識があるものと判断できるものである。

（2）情報公開

当該会社は、学校設置会社が備えるべき書類（貸借対照表、損益計算書、営業報告書）、業務状況書類を、株式会社新設高等学校が設置する学校において、書類作成中の期間を除いて公開することとしている。これらの書類は毎年度末現在で作成され、6月末日以降は公開が可能となる。

また学校の内部や授業の様子等は、学校を公開する際の一定の安全対策（受付での確認等）を講じた上で、常に公開すると共に、定期的にオープンスクール等を実施して一般に公開し、また、ホームページ等を活用して本校に関する情報を公開する。

（3）地方公共団体による評価

本町は、町独自の南木曾町通信制高等学校審議会を設立するが、この審議会では最低年1回の学校評価を書類面および実地面で実施することとする。また、経営面と教育面を含んだ評価の内容は、広く一般に公表することとする。

（4）セーフティーネット

学校の経営破綻などが生じた場合のセーフティーネットについては、認可者である町長の責任で実施することとする。その方法としては、町の内部にあらかじめ担当者を定め、近隣所在の通信単位制高等学校の転入学に関する情報収集を行う。町長のもと、それらの資料を基に設置会社の責任者、セーフティーネットの協定を結んだ学校法人つくば開成学園高校の責任者が定期的な打ち合わせの機会を持ち、常に検討して行きたい。

また、万一学校経営に著しい支障を生じた場合は、町内部に専門の窓口を設け、他校への転入学希望を聴取し、転入学の可能な学校に関する情報収集・指導を行えるようにする。なお、町は学校設置会社と共に、通信制単位制高等学校（広域）である「つくば開成高等学校」と責任を持って受け入れ指導にあたる旨の協定を締結することとしている。

（5）審議会

本町では、町独自の南木曾町通信制高等学校審議会を設置し、行政の適正性・公正性・専門

性を確保することとする。その委員構成は、私立・公立学校関係者から3名、教育関係有識者から2名、会社経営に携わる者1名の計6名とする。

この町審議会は、特区認定申請が許可され次第、第1回の会合を開催し、学校の設置認可を審議することとする。学校の設置認可を認めた場合は、その運営が適切に行われているか定期的な報告を受け、毎年一度、「審議会」を開き学校の運営を指導していく。

〔別表1-1〕

教育課程

教科	科目	必修 履修	単 位 数	面接指導回数	レポート 提出 回数
国語	国語表現Ⅰ	○	2	2	6
	国語表現Ⅱ		2	2	6
	国語総合	○	4	4	12
	現代文		4	4	12
	古典		4	4	12
	古典講読		2	2	6
	●読書 島崎藤村	◎	4	4	12
地理・歴史	世界史A	○	2	2	6
	世界史B	○	4	4	12
	日本史A	○	2	2	6
	日本史B	○	4	4	12
	地理A	○	2	2	6
	地理B	○	4	4	12
	●伝統芸能に見る日本文化	○	2	2	6
●交流史 中山道に見る道の役割	○	2	2	6	
●郷土史に学ぶ	◎	4	4	12	
公民	現代社会	○	2	2	6
	倫理	○	2	2	6
	政治・経済		2	2	6
数学	数学基礎	○	2	2	6
	数学Ⅰ	○	4	4	12
	数学Ⅱ		4	4	12
	数学Ⅲ		3	3	9
	数学A		2	2	6
	数学B		2	2	6
	数学C		2	2	6
理科	理科基礎	※ 印 参 照	2	8	6
	理科総合A		2	8	6
	理科総合B		2	8	6
	物理Ⅰ		3	12	9
	物理Ⅱ		3	12	9
	化学Ⅰ		3	12	9
	化学Ⅱ		3	12	9
	生物Ⅰ		3	12	9
	生物Ⅱ		3	12	9
	地学Ⅰ		3	12	9
	地学Ⅱ		3	12	9
保健体育	体育	◎	7	35	7
	保健	◎	2	2	6
芸術	書道Ⅰ	○	2	8	6
	美術Ⅰ	○	2	8	6
外国語	O.CⅠ	○	2	8	6
	O.CⅡ		4	16	12
	英語Ⅰ	○	3	12	9
	英語Ⅱ		4	16	12
	リーディング		4	16	12
	ライティング		4	16	12
	●英語検定	◎	4	16	12
家庭	家庭基礎	○	2	8	6
	家庭総合	○	4	16	12
	生活技術	○	4	16	12
情報	情報A	○	2	8	6
	情報B	○	2	8	6
	情報C	○	2	8	6
◇総合的な学習の時間		◎	3	6	4~6
		◎	3	6	4~6
		◎	3	6	4~6
合計			166	428	469~475

◎は必修 ○印は選択必修で□の中から一つ選択

※必修科目については「理科基礎」、「理科総合A」、「理科総合B」、「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」及び「地学Ⅰ」のうちから2科目（「理科基礎」、「理科総合A」及び「理科総合B」のうちから1科目以上を含むものとする。）

●印は学校設定科目

注：特別活動、ホームルーム及び学校行事は毎年10時間行うものとする。

保健体育の「体育」は3年間でを行う時間数、レポート数を記載。

[別紙1-2]

「学校設定科目」の学習テーマと設定単位数

[必修]

国語[4] 読書—島崎藤村

藤村の三期に分かれる作風のそれぞれの登場人物は悩みを持ち生きていく。読書により、他人の生き方を学び自分とは異なる一所懸命生きている人の存在を知る事で、読書の持つ意味、社会での自己の位置を考えさせる事が主眼。

[必修]

社会[4] 郷土史に学ぶ

木曾の年貢は、お米ではなく[木]だった！95%が森林、その75%が国有林という日本でも特徴ある風土の歴史から木材の持つ意味、地域の人々が生きる為に永々と続けてきた努力から藤村の「夜明け前」も教材に[生きる]と言うこと、[人と協力する大切さ]も学ぶ事が主眼。

[選択必修]

社会[2] 交流史—中山道に見る道の役割

昔の街道が如何に大切な役割を果たして来たかを、そのまま保存されている本陣等宿場の構成も併せ学ぶ中で現代の道との比較から道の役割とその変遷を考える事が主眼。

社会[2] 伝統芸能に見る日本文化

南木曾の伝統芸能を鑑賞し、その成り立ちと役割、地域の人々の想いを学び、生徒は各出身地の郷土芸能を調べ、その役割と比較させて、「地域」にはそれぞれ特徴がある事を考える事が主眼。

[必修]

英語[4] 英語検定

これからの国際社会を生きる為に必須な英語力を教科学習に併せ強化する。併せて[資格を取る]事の意味も指導して進路学習にも繋げて行く事が主眼。（英語検定準2級の取得を目指す。）

総合的な学習 各学年 3単位

担任の指導のもと、自己の進路を考えその実現のために何が必要かを学ぶ事が狙い。

様々な職業の方の体験を伺い、担任教諭との共同指導の中で、職業別の楽しさを学ぶ時間や実際の職業体験や専門学校、短大、大学の協力を頂き授業に参加し、専門ごとに違う学びがあることを知る時間。